

1. 企画趣旨

授業に関する学生・教員交流会（以下、交流会）は、授業アンケートでは拾いきれない学生の直接的な声を聞くことを目的として、年に1回開催されている。2013年度～2017年度は、授業アンケートに関する話題（分量、質問項目、実施時期、実施方法など）が中心であったが、2018年度からは、授業全般について話題が広がっている。また、2019年度は、教育の当事者である学生の積極的な参画をねらい、学生FDの組織作りにつながるような企画を実施した（表1を参照）。

学生FDとは、教育の当事者である学生と教職員が協働しながら、教育環境ならびに授業内容を、改善・向上させていく取り組みのことである。既にいくつかの大学で導入され、成果が報告されている。学生FDの一例としては、学生主催の「FDカフェ」の実施、おすすめ授業の紹介、学生によるシラバスの読み説き方、上級生による「学び方講座」の実施（ポートフォリオの活用、学びのロールモデルの紹介、学内施設の活用方法）、学生発案の授業の実施、などがある。

表1 授業に関する学生・教員交流会のテーマ（2013年度～2019年度）

開催年度	テーマ
2013年度	授業アンケートについて感じたことや改善点について／学習環境全般について
2014年度	授業アンケートについて感じたことや改善点について／学習環境全般について
2015年度	授業アンケートについて感じたことや改善点について／学習環境全般について
2016年度	授業アンケートをもとにした授業改善について／授業アンケートに関する教員コメントの内容について／その他
2017年度	時間割の要望について／授業の進行方法について／授業改善の要望について／授業・講義に関することその他
2018年度	授業レベルについて／到達目標について／授業外学修について／授業・講義に関することその他
2019年度	トークテーマ1 学生FDの企画内容／トークテーマ2 学生FDの体制づくり トークテーマ3 学生によるカリキュラム開発

実は、2019年度の実施（2020年1月）後、交流会参加の学生有志で学生FDをスタートさせることを検討していた。また、2月には「学生FDサミット2020春in広島経済大学」に学生数名と参加する企画を立てていたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴いイベントは中止となった。

新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延という未曾有の事態に直面し、大学の学びは大きく転換した。そんな1年だったからこそ、新しい学びを前向きに考えることを今年度のテーマとした。もちろん、昨年度から検討を続けている学生FDの組織づくりも視野に入れた。

2. 実施概要

■学生募集

期間：2021年1月8日～1月20日

募集方法：メール告知とFD委員による声かけ（各学科2,3人選出）

申し込み方法：Microsoft Forms

今年度は、自宅で参加できるZoom開催であり、さらに、後期授業終了後、比較的時間があなまでの実施であったことから、例年より主体的に応募をした学生が多かった。

学生の参加動機は以下のようなものが挙がった。

Zoom授業を受けて感じたことを共有したい

- ・自分を含めて、オンライン授業で大学生活が始まった1年生は、何を思ったのか、どのように授業を受け

たか知りだいたいと思った。

- ・改善すべき点だけでなく、良い点もあったので、先生方にその感謝を伝えたいと思った。
- ・オンライン授業の利点と欠点について話をしたいと思った。
- ・Zoom授業の受け方について、工夫を共有したいと思った。

Zoom授業の改善を図りたい

- ・Zoom授業で学生の意見を取り入れてほしいと思った。
- ・Zoom授業の改善のために、他学科の学生と意見交換ができればよいと思った。
- ・受講者側だからこそその意見を伝えたいと思った。
- ・遠方通学の自分にとってオンライン授業はありがたかったが、何となく置いておかれている印象があったので、そのことを伝えてみたいと思った。

教職員・他学科の学生と交流してみたい

- ・教職員と直接話す機会がないため、交流を持ちたいと思った。
- ・普段接することのない人と交流することで、コミュニケーション力を向上したいと思った。
- ・コロナ禍における学生生活について話をしてみたいと思った

将来に役立てたい

- ・教員を目指しているので、Zoomの活用を考えたり、ハイフレックス型の授業デザインを考えてみたりしてみたい。
- ・教職の授業でICT教育はコロナの蔓延に関わらず進めていくべき教育であることを学んだ。予測不可能な状況においても、歩みを止めず「今できること」を考えていきたいと思った。

「できること」を考えてみたい

- ・今年の1年生の状況を考えると胸が痛い。次年度は後輩に辛い思いをしてほしくないで、次年度に備えて、本学のハイフレックス授業をよりよいものにしたいと考えた。
- ・悩みや本音を共有することで「縦のつながり」を作りたいと思った。
- ・コロナ禍であっても学園祭は実施できたので、できることを前向きに考えたいと思った。

その他

- ・先生からの勧めがあったから。
- ・友人からの誘いがあったから。

以上のように、学生の動機は多岐に渡る。Zoom授業を受けて感じたことを共有し改善を図るといふ、交流会のねらいに沿ったものから、普段関わらない人との交流を期待するもの、新しい何かを創造することを企図するものまで様々である。また、教職課程を履修している学生が、新しい教育手法を学ぶ場として、参加を決めたケースもある。さらに、人との交流が制限された2020年度だからこそ、本交流会は、その想いを伝える場としても期待された。

■当日の記録

【日 時】2021年2月3日（水）15：00～17：00

【方 法】Zoom開催

【参加者】46人（学生27人 参加教員11人 見学教職員8人）

【テーマ】本音で語って！Zoom授業のリアル

(1) プログラム

1. 開会あいさつ、交流会の説明 (20分)
2. グループミーティング (自己紹介を含む) (40分)
(10分休憩)
3. グループ発表 (各5分×6グループ) (30分)
4. アンケート記入 (10分)
5. まとめ (10分)

(2) 交流会の目的

- ・いろいろあった1年をふり返ろう
- ・授業アンケートでは伝えられない想いを共有しよう
- ・自分の学科以外の学びを知ってみよう
- ・Zoom授業の本音を語ろう (いいところ、大変なところ……)
- ・新しい十文字のZoom授業を創ろう

(3) グループミーティングの編成

- A 人間福祉 & メディアコミュニケーション
- B 食物栄養 & 心理・人間発達心理
- C 食品開発 & 社会情報デザイン
- D 健康栄養 & 文芸文化①
- E 幼児教育 & 児童教育
- F 文芸文化② & 生活情報&留学生

(4) グループミーティングの進め方・グループ発表の方法

当日は、(3)で示したように6つのグループに分かれミーティングを行った。1グループにつき、学生は4名~5名、教員は2名である。また、今年度は、Zoom開催ということもあり、教務課職員、FDに関心のある教員も自由に見学することができた。

ミーティングには、Google Jamboardを活用した。Google Jamboardは、アイデアの共有と可視化に優れているデジタルホワイトボードである。各グループ3枚のシートが与えられ、以下のようなテーマで話し合いを進めた。ミーティングに用いられたGoogle Jamboardのサンプルを以下に示す(図1・図2)。

トークテーマ1 Zoom授業をふり返る ⇒ 1枚目のシートに記述

トークテーマ2 おすすめ授業を共有する ⇒ 2枚目のシートに記述

トークテーマ3 理想の授業を創ろう ⇒ 3枚目のシートに記述



図1 Zoom授業をふり返る

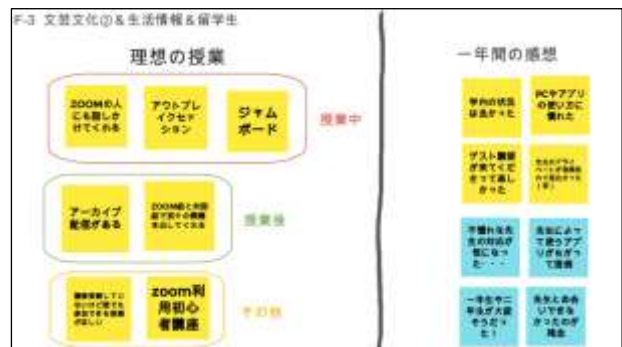


図2 理想の授業を創ろう

(5) グループミーティングの結果

各グループのミーティング結果の中から、特に、授業改善に資する意見や、2021年度以降検討したい意見を抜粋する。

トークテーマ1 Zoom授業をふり返る

【ハイフレックス型授業・Zoom授業のメリット】

- ・忘れ物の心配がない。
- ・時間を効率よく使える。
- ・体調が悪いときにも出席できる。
- ・どこにいても受講できる。
- ・1人暮らしの学生は実家で受講することができる。
- ・隔週でも登校できたのは嬉しかった。
- ・配信される映像が鮮明である。
- ・PCのスキルが上達した。
- ・意欲的に勉強するようになったし、勉強会を開催したりするようになった。
- ・教員の話しか聞こえないため集中できた。
- ・動画のアーカイブを復習に使える。
- ・チャットを使用して意見を共有したり、先生だけにメッセージを送ったりできる。

【ハイフレックス型授業・Zoom授業のデメリット】

- ・課題が多い（ミニテストがレポートになったケースがある）。
- ・課題だけで評価されているのではないかという不安がある（多面的な評価をしてほしい）。
- ・印刷物が多い。
- ・シラバス通りにいかないことがある。
- ・スマートフォンだと画面が小さく見にくい。
- ・友達に会えない。
- ・さみしい。
- ・孤独感がある。
- ・すぐに質問ができない。
- ・画面ONでない場合、授業の雰囲気が暗い。
- ・メールの管理が大変である。
- ・次第に教室参加の人が少なくなっていった。
- ・自分で集中する環境を作らないと、授業に集中できない。
- ・PCを持っていない人やネットワーク環境が悪い人にとっては受講しづらい。
- ・大学のPCにしか入っていないソフトを使用するとき、自宅では何もできない。

トークテーマ1については、いずれのグループも、メリット・デメリットの両側面を的確に捉えることができていた。学生たちは、Zoom授業の効率性を実感しながらも、直接的なコミュニケーションの機会が減ったことを残念に感じているようだった。

また、実習を伴う学びにおいては、学習に用いるソフトや機材の関係で、Zoom授業と対面授業の両立が難しいことがうかがえた。

トークテーマ2 おすすめ授業を共有する

【授業展開】

- ・カメラを2台用意してくれた授業では、Zoomで参加している側から登校組の様子をみることができた。

- ・少人数の授業では、ビデオオンにすることで、皆と話しているような気になった。
- ・適度な休憩があったり、雑談があったりした。
- ・出席方法が明確であった。
- ・ブレイクアウトセッションが“自習室”のような形で使えた。
- ・遠隔会議システムのメリットを活かし、ゲスト講師の話があった。

【グループワークや意見の見える化について】

- ・ブレイクアウトセッションで交流ができた。
- ・ブレイクアウトセッションを使って教え合うことができた。
- ・アンケート機能を活用することで、クラスの傾向を知ることができた。
- ・Google Jamboardが用いられ、グループワークができた。

【配信コンテンツの充実】

- ・講義資料・Zoom・YouTubeなど、複数のコンテンツ・授業方法が用いられていた。
- ・前日の夜に動画配信され、課題を提出することで出席という授業は、すき間時間を活用し、効率よく受けられた。
- ・授業動画をStreamに残してもらえる授業は復習がしやすかった。
- ・授業資料と配布資料が同じ授業は、予習復習がしやすかった。

トークテーマ2については、目の前（対面）の学生指導に気を取られがちな教員が、Zoom参加者に配慮をみせた授業が評価された。学生たちは、対面側の学生とZoom参加側の学生とが、一体感をもって授業を受けることを望んでいる。授業者にとっては、異なる参加形態の学生たちに向けて、それぞれに対応した配慮を心がけるのは容易ではないが、Zoom授業の良さと対面授業の良さを合わせたような授業を考えたいものである。

また、授業資料を含めた配信コンテンツについては、予習・復習のしやすいコンテンツが高く評価された。

トークテーマ3 理想の授業を創ろう

【教室環境について】

- ・アクリル板を個人机に設置してほしい（感染を心配することなくグループワークができるため）。

【授業内容について】

- ・遠隔会議システムの良さを活かして、普段は会えないゲスト講師の授業を受けたい。
- ・Zoomの学生が積極的に参加できる場を作ってほしい。
- ・先生方と積極的なコミュニケーションを取りたい。
- ・ブレイクアウトセッションを使用して、学生同士が話し合ったり、授業の疑問点を解決したりできるような場がほしい。

【Zoomの活用について】

- ・学生も画面ONで授業を受けた方が一体感がある。
- ・リアクション機能の活用により、参加意識を持つことができる。
- ・アーカイブ配信がある。

【受講環境について】

- ・学籍番号で登校と自宅受講を分けるのではなく、自分で選択できる授業があってもよいのでは。
- ・大学でしか使えないソフトを、自宅で使えるようにしてほしい。
- ・扱うシステムを統一してほしい。

- ・できる限り早めに授業資料を配布してほしい。

【その他】

- ・Zoom授業に関する意見を述べたり、良い授業の方法を気楽に伝えられたりするような“目安箱”を設置してほしい。
- ・Zoom利用初心者のために、効果的なZoom受講の方法をレクチャーする講座を開催してほしい。
- ・授業時間外で質問の時間を設けてほしい。

2020年度は、教員側の対応が追い付いていないところもあり、学生に対しての指示が遅くなったケースもあった。また、出席確認や課題提出等に用いるシステムも教員毎に異なっていたことから、統一を望む声が挙がった。

Zoomを活用した授業がスタートして1年経つが、まだ教員側のスキルに差があるのは否めない。Zoom側の学生の受講意欲を促すためには、授業に参加しているという“ライブ感”と、教室の学生との“一体感”が欠かせない。学生たちのアイデアを活かしながら、よりよい授業を創っていきたい。

3. 事後アンケート

事後アンケートを学生、教員に向けて実施した。提出はMicrosoft Formsである。

(1) 学生

① 交流会の参加について

参加してよかった	26
普通（特になし）	1（留学生）
参加したくなかった	0

② 本音を伝えられた

伝えられた	19
まあまあ伝えられた	8
あまり伝えられなかった	0
伝えられなかった	0

おおむね、本音を伝えることができたようである。今回集まったメンバーが、積極的で意欲的なメンバーであったことから、友好的な雰囲気での話し合いは進んでいったようだった。また、互いの意見を受け入れ、共感する姿勢がどのグループにもみられた。

「まあまあ伝えられた」と回答した学生は、グループで話す時間が少なかったことを理由に挙げており、話し合いの時間が足りなかったことがうかがえる。

③ 交流会は、今後も実施したほうがよいか

実施したほうがよい	26
どちらでもない	1（留学生）
実施しなくてもよい	0

④ 学生FDに関心があるか

とても関心がある。自分で企画に携わりたい。	8
まあまあ関心がある。企画があったら参加したい。	19

上記のように交流会の満足度はかなり高いことがうかがえる。学生FDの組織立ち上げに向けても意欲的な参加者がいて、次年度につながる開催になったといえる。

⑤ 感想（自由記述）

グループ活動について

- ・トラブル（途中Google Jamboardが動かなくなった）にも即対応する柔軟性があった。
- ・これからも他学科との学生と話す機会があれば参加したい。
- ・これまで関わらなかった方々と話ができ楽しかった。
- ・2時間はあっという間だった。

Zoom授業について

- ・Zoomの可能性を知ることができたので、コロナが収束しても配信型授業はあってもいいと感じた。
- ・「目安箱」を早急に作ってほしい！全体で情報が見られるシステムがあるとよいか。
- ・他学科の授業の良さを知り、自分の学科でも取り入れてほしいと思った。（例えば、Stream配信で授業のふり返りができる点など）。

共感

- ・不安な気持ちは皆一緒だとわかった。
- ・教員も相当苦勞していることがわかった。

交流会・FD活動への要望

- ・先生側の感想ももっと聞きたい。
- ・交流会の意見を有効活用してもらいたい。
- ・日常的に授業でこうした活動があるとよい。
- ・もう少し頻度を高めて開催してもよいのでは。
- ・先生方がミュートで画面OFFだったので、もっと先生と学生でコミュニケーションがとれたらよかった。

(2) 教員

① 交流会の参加について

有意義だった	14
普通（特になし）	2
よくなかった	0

有意義だったと答えた理由

【Zoom授業に関して】

- ・実際にオンライン授業・ハイフレックス授業に出席した学生の生の声を聞くことができた。
- ・学生がどのように授業に臨んでいるのかがわかった。
- ・積極的に学びたいと思っているかがよくわかった。
- ・遠隔授業に対して肯定的に捉えていることがわかった。
- ・他学科の取り組みを知ることができた。
- ・Zoomの方法を学生に教えてもらえた。

【教職員の指導に反映】

- ・今後の授業計画に活かしたい。
- ・授業計画において新しいアイデアをもらうことができた。
- ・職員の立場でできる学生指導を検討していきたいと考える。

【学生の姿勢】

- ・Google Jamboardが途中使えなくなるというトラブルにも慌てず柔軟に対応していた姿勢が良かった。
- ・学生たちが普段の学生生活から獲得しているであろうリーダーシップ、自主性、協調性、協働性などの能力の一部を見ることができた。
- ・職員の立場から実際の授業に参加することは少ないため、有意義と感じた。
- ・予期せぬトラブルにも対応する学生を目にして「見守る」ことの大切さを感じた。

【意見交流会という場の設定】

- ・学科を超えた学生・教員交流は自己開拓をするのは難しいため、大学側で企画することは有意義。
- ・発言の場が学生にある、ということが学生のモチベーション維持につながる。

普通（特になし）と答えた理由

- ・教員の立場で想定していた内容が多くあがったため。

② 今期の授業に関して、学生の直接的な声を聞くことができたか

できた	12
ある程度できた	4
あまりできなかった	0
できなかった	0

- ・参加学生に積極性があり、人数も適切であった。
- ・学生主体で話し合いが進んでいった。
- ・学科毎のグループであったことも大きいと思う。
- ・非常に具体的な意見を聞くことができた。
- ・学生たちも困難な状況の中、試行錯誤であったことがわかった。
- ・良かった点、よくなかった点を素直に伝えてくれた。
- ・メリット/デメリットいずれにも、学生たちがもっとも前向きに捉え、授業に適応しようと工夫や努力をしていることがわかった。
- ・通常の業務では聞けないような学生の本音を聞くことができた。
- ・今年度はメールがたくさん届いて大変だったとのことや、前期の遠隔と後期のハイブリッド型についてどちらがよかったか学生によって違う意見が聞けた。

③ 交流会の企画継続について

実施したほうがよい	15
どちらでもよい	1
実施しなくてよい	0

実施したほうがよいと答えた理由

【学生の声を直接聞く機会の確保として】

- ・対面や、今回のようなオンライン形式は、グループ間でもオープンな形で、温度感を伴って意見が発表されるところが良いと思う。
- ・アンケートの回答だけではわからない学生たちの考えやアイデアを知ることができるから。
- ・学生側のガス抜きとしても機能するから。

【学生間・教員間で意識を共有する機会として】

- ・問題点を一人で抱えず、相対化できるため。

【創造的な活動につなげるきっかけとして】

- ・学科を超えた学生間のコミュニケーションの場をリアルに体験できることがよい。
- ・相互に共感しあったり、対話を重ねることで別の解決策が見つかったりすることがある。
- ・大学に何かを要求するだけでなく、共によりよくしたいと考え、行動してくれる学生が存在することは、職員としても励みになる。
- ・雑談を含めた中でこそ出てくる話もあると思うので、継続的に実施した方がよいと思う。
- ・あらかじめ想定した質問を問うアンケートは、得られる情報に限界がある。一般的な傾向をアンケートで把握することも有意義だが、熱意を持った学生個別の生の声は、具体的に授業を改善する上で想定していなかったヒントとなる可能性がある。
- ・望ましい支援を学生自身が考え、発信するよい機会となる。
- ・参加学生が学生FDにも立候補するなど、この企画の意義、学生からの要望を痛切に感じた。

【授業改善につなげるため】

- ・シラバスの執筆時期とも重なり、有益と感じた。
- ・学生の声を反映した授業設計を行う上で必要だと思う。
- ・教員、学生が相互に共有できる「目安箱」はとても参考になると思う。
- ・学生の受け止めに幅広く知ることによって、授業を行ううえで、どのようにしたらよりよいかを考える参考になる。
- ・教員として（もちろん学生自身も）、授業を見つめなおす良い機会である。

どちらでもないと思った理由

- ・zoomに学生たちはずいぶん慣れ、話がしやすい環境にあるようだった。そのため、対面だと教員も近くにおいて話しにくい可能性もあるため、zoomであったらまた企画した方がよいと思う。

④ 話し合いで印象に残ったこと（全体を通して）

- ・学生がJamboardを使いこなしていること。
- ・ファシリテーター役の学生のレベルの高さ。
- ・学生によって望む授業形態が異なっていること。
- ・ブレイクアウトセッションを用いた活動を学生が望んでいるということ。
- ・ブレイクアウトセッションの活用を積極的に望む声が集まったが、授業内容やグループの分け方によって効果が左右されるので、その見極めも大切だと思う。
- ・教員が思っているほど遠隔授業はネガティブなものではないことを実感した。
- ・教務課にいとネガティブな意見を多く聞くことが多いが、交流会に参加した学生はポジティブに捉えていることがわかった。
- ・「目安箱」（お悩み語ろう）がいい案だと感じた。
- ・ハイフレックス型の授業進行にあたり、登校学生側にPCチェックをする学生を置き、配信画面に不具合がある時は先生に知らせるなど、遠隔授業を受講の学生に不利益がないよう学生相互に協力しあうアイデアがとてもよいと思った。
- ・学生の主体的に発言する姿勢が印象的だった。よい雰囲気だったと思う。特に後半、アイデアがどんどん出てきて時間を切るのが惜しくなった。
- ・メリット・デメリットの話し合いでは、2年生以上の学生がブレイクアウトルームを評価していることに対し、1年生は必ずしもそうではない（初対面の学生同士で話すことに抵抗がある）ということが分かり、学年の特性に応じて授業デザインを考えていくことも大切なのだと考えさせられた。
- ・学生から今年はメールがたくさん届いて大変だったとの声があり、共感したので、メール送信を減らす工夫をしたいと思った。

- ・Zoom受講のグループが抱く“置いてけぼり感”を改善できたらいいと感じた。
- ・反応マークで示す機会があると授業に参加している感覚が強くなると聞いて、取り入れたいと思った。ただ、受講人数が多い場合は、画面が数ページにもわたるので難しい。
- ・Zoomの画面を常に対面の学生も見られるようにすると反応マークに教室の学生も反応出来てよいのではないかと考える。

⑤ 今後の交流会のテーマや話し合い結果の共有について

交流会のテーマ

- ・学生がイメージする魅力的な授業、学科を超えた学びのアイデア。
- ・大学のカリキュラムをどう思っているか、学生の「学びたい」気持ちに応えられているのかを知りたい。
- ・今どきのアルバイト事情、大学が提供できる学生サポート・労働の提供（授業支援SAなど）。
- ・参加した学生に開催方法について意見を聞いてみたいと思う。テーマは、授業に関わるトピックを継続していいのではないかと。
- ・学生には、どのように情報発信をした方が情報を受け取りやすいか気になった（情報の受け取り方）。
- ・次回のテーマは別テーマになるとしても、その後、学生たちが挙げた意見がどのように反映されたかを検証する時間が必要なのでは。

話し合いの共有

- ・大学の管理部門や教学部門に対してどのような形で情報を共有し、改善に向けて進めていくか、組織や役割分担が必要だと考える。
- ・jamboardに残った学生の声を整理して教職員が見られるようにできるといいと思う。
- ・交流会の結果は、大学HPにFD用のサイトを設置するので、可能な範囲で公表できたらと考える。
- ・Youtubeなどで限定公開してチャンネルを作り、参加していない先生方や学生にもぜひ見てほしい。
- ・交流会の話し合いの結果は学生も含めた全学的に共有することがよいのではと思う。全員で挙げた声を共有すると全学的に機運が高まるのではと思う。

4. まとめ

意欲的かつ積極的な学生の参加に恵まれ、交流会では建設的な意見が多く挙げた。今後は、挙げた意見をもとによりよい授業方法を考え、実現していくことが大切となる。

例えば、今回の交流会では、授業について忌憚なく意見を言い合える環境の提案が多く挙げた。具体的には、「目安箱」の設置や、学生・教職員でアイデアを共有する掲示板のようなものである。学生FDがスタートすれば、TwitterやInstagramでの情報発信も期待できるだろう。

対面授業を当たり前に行っていた時期を懐かしむのではなく、新しい学びを創ることを前向きにとらえ、学生・教員・職員で本学らしい学びを創っていきたい。

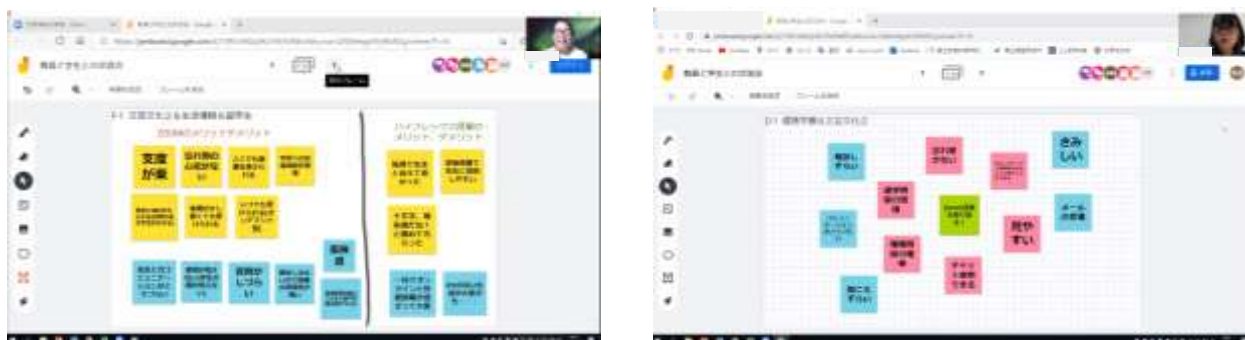


図3 グループ毎の発表の様子